

第3章 まちづくりの主要テーマ と将来都市構造

本章では、本計画で達成をめざす「まちづくりの主要テーマ」を設定するとともに、主要テーマごとの実現に向けた取組みの方針である「テーマ別方針」を設定しています。また、実現をめざすべき持続可能な市域全体のあり方を示す「将来都市構造」を設定しています。

第3章

まちづくりの主要テーマと将来都市構造

前章までに整理した「背景となる社会潮流の変化」や「本市のまちづくりの状況と課題」を踏まえ、達成すべき目標として「まちづくりの主要テーマ」を設定しています。また、主要テーマの達成に向けた分野横断的な取組みの方針として、「テーマ別方針」を設定しています。

3 1 本市を取り巻くまちづくりの状況と課題の整理

図31のとおり、序章「背景となる社会潮流の変化」の内容については、チャンスとして“捉えるべき機会”と、備えておくべき“今後の脅威”に分類し、13「都市活動からみた本市の特徴」及び第2章「分野別にみた本市の状況と課題」の内容については、評価できる事項である“今ある強み”、解決すべき事項である“今ある弱み”、備えておくべき“今後の脅威”に分類することで、本市のまちづくりの状況と課題を整理・分類します。

「都市活動」及び「分野別」から抽出した本市のまちづくりの状況と課題

今ある強み

近隣市からの転入（以下の強み等による）
ゆとりある閑静な居住環境と多様な地域性
コンパクトな公共交通環境と市民ニーズに沿った利便性の向上
豊かできれいな水・みどり
市民活動の場としてのみどり
暮らしと調和した景観の維持・保全
重層的な歴史文化遺産

今ある弱み

地域活力の維持・向上（通勤通学や余暇活動、買回り品購入の市外流出、産業機能等の維持・向上）
道路環境の更なる改善
都市や地域を特徴づける景観づくり
人びとの活動による景観づくり

捉えるべき機会

持続可能な社会の実現に向けた取組み
変化する生活様式や価値観
情報化社会の進展
コンパクトなまちづくり
ウォークアブル なまちづくり
新たなまちづくりの視点

今後の脅威

人口減少・少子高齢化社会の進行を前提としたまちづくり
農家数・農地の維持・向上と休耕地化への対応
空家・空地の発生抑制、有効活用と流通促進
地域の再生・活性化
都市のレジリエンスの重要性の高まり
大規模な自然災害への備え
基盤施設の老朽化への対応

踏まえておくべき「背景となる社会潮流の変化」

図31 背景となる社会潮流の変化及びまちづくりの状況と課題

3-2 まちづくりの主要テーマとテーマ別方針

図 3-2 のとおり、3-1 において整理・分類した「本市を取り巻くまちづくりの状況と課題」に応じて、<強みを伸ばす> <弱みを補う> <脅威に備える> といった視点から、達成すべき目標として、3つの「まちづくりの主要テーマ」を設定し、主要テーマの達成に向けた分野横断的な取組みの方針として、テーマ別方針を設定します。設定にあたっては、「はじめに(序章)」の背景となる社会潮流の変化及び「都市活動からみた本市の特徴(第1章)」を踏まえたものとします。

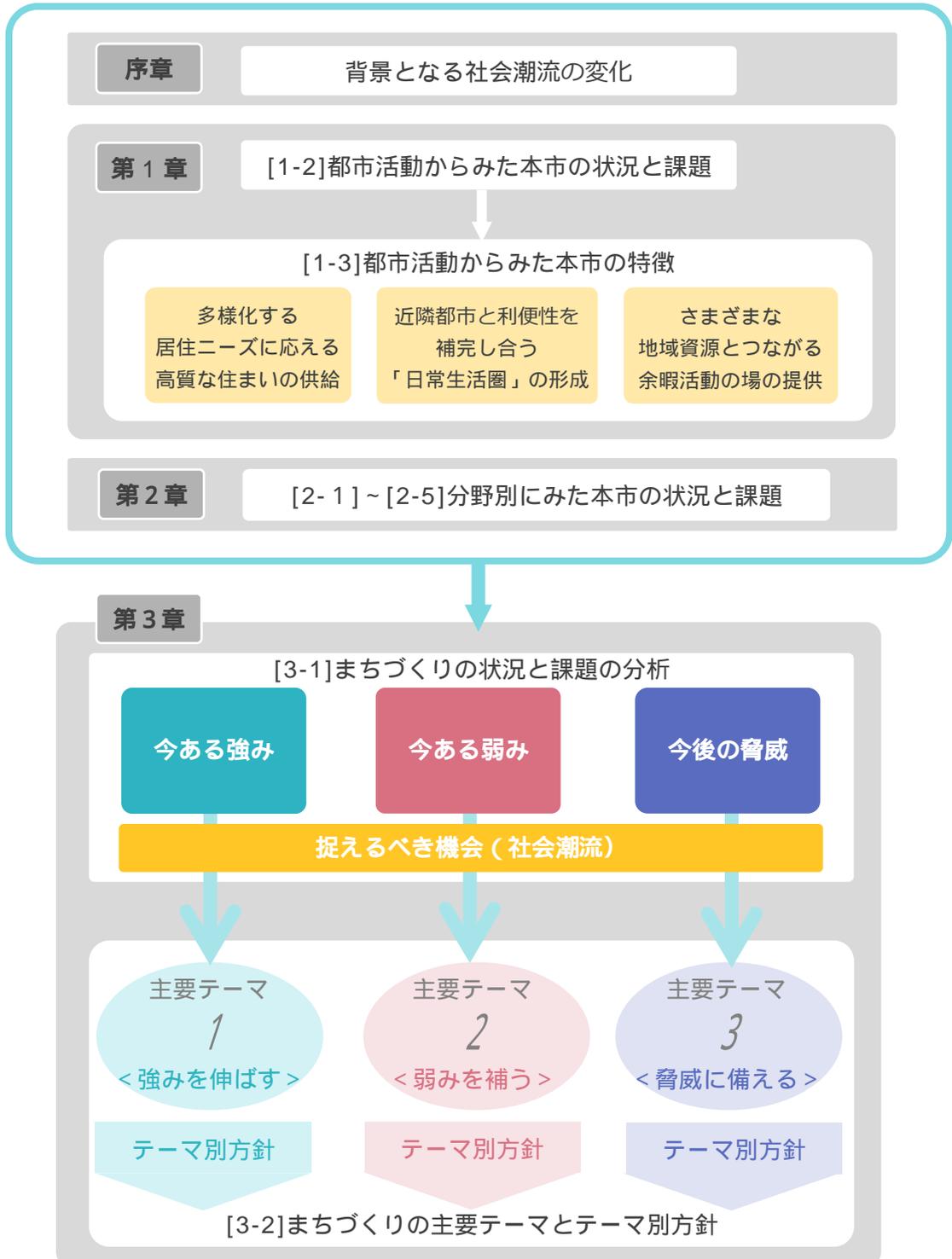


図 3-2 主要テーマ及びテーマ別方針の抽出と各章の関係性

(1) 主要テーマ1 | 強みを伸ばす

身近な魅力が活きる生活空間の向上

本市には、鉄道交通の利便性や、路線バス や市循環バス によるきめ細かな公共交通網、きれいで豊かな水・みどり と高質な居住環境、コンパクトで利便性の高い日常生活圏、公共下水道での生活排水処理による公共用水域の水質保全と衛生的な生活環境の提供等、多くの強みがあることから、全国的に人口減少・少子高齢化社会が進行する中でも一定の人口規模を維持しています。

今後も、健全な都市活動を維持・向上させていくため、以下の方針により、これらの強みを伸ばし、磨きをかけ、高質な居住環境の維持・保全、公共交通の維持・拡大と利用促進、魅力的な水とみどりのネットワークの形成、歴史文化遺産 を活かしたまちづくりなど、身近な魅力が活きる生活空間の向上をめざします。

< 創出する暮らしのイメージ >



ゆとりのある居住環境で落ち着いた暮らし、豊かな自然環境がある心安らく暮らし、鉄道駅に近い都市的な利便性の高い暮らしなど、それぞれの地域との関わりをもちながら、多様な居住環境を選択できる暮らしの実現をめざします。

公園や緑地等に市民が集まり、子育てや健康づくり、趣味や地域活動を行うといった日常の中で、特別な時間を過ごすことができる機会のある暮らしの実現をめざします。



狭山池や天野街道等の歴史文化遺産や豊かな自然環境など、本市独自の魅力を楽しむことができる機会を創出することで、水・みどりをより身近に感じられる暮らしの実現をめざします。

方針 1

都市計画制度の適正な運用等による高質な都市環境の維持・向上

- ・みどり 豊かな環境、良好な水環境、ゆとりある高質な居住環境といった本市の強みを維持・向上させるため、新たな建築及び開発の許可や指導において、都市計画法や本市開発指導要綱等を適正に運用します。また、高質な都市環境の形成に寄与している公共用水域の水質と衛生的な生活環境を維持・保全するため、下水道施設の適切な維持管理及び計画的な改築更新を進めるとともに、包括的民間委託による手法や情報通信技術等を取り入れた施設の有効活用等を進めることで、環境にやさしいまちづくりを進めます。
- ・地域の意向や地域特性を踏まえた良好な都市空間を維持・保全するためには、住民等が主体的に建築協定や地区計画等に取り組むことが重要であり、本市は住民等の取組みに対して助言等の支援をします。

関連する SDGs



方針 2

公共交通の維持・拡大と利用促進

- ・バス交通や鉄道駅等、コンパクトな公共交通ネットワーク環境を維持することで、利便性の高い移動環境の確保に取り組みます。
- ・健全な運営が可能となるよう公民連携等による快適なサービス提供を進めるとともに、モビリティマネジメントの観点から普及啓発を行い、公共交通の利用促進に取り組みます。
- ・近隣市及び交通事業者等との連携により、市民の活動実態やニーズを踏まえたバス交通ネットワークのあり方を見直すことで、広域公共交通ネットワークの形成と利便性の高い日常生活圏を形成します。また、持続可能な運営環境を構築するため、これら関係団体と連携した利用促進に取り組みます。

関連する SDGs



方針 3

魅力ある水とみどり の拠点と安全・快適なネットワークの形成

- ・水とみどりのネットワーク構想の推進により、本市の中心に位置する狭山池と本市に点在する公園・緑地、緑道 等において、新たな機能導入や空間活用、拠点間を結ぶ安全で快適な歩行者空間の整備等を進めるとともに、各拠点のネットワーク化を図ることで、相乗効果を生み出し、市全体の魅力を高めます。さらに、同構想において、重点アクションエリアと位置づけている狭山池周辺エリアにおいては、副池オアシス公園との一体的な整備やエリアマネジメント 体制の構築等に取り組みます。
- ・東野地区にある市民ふれあいの里については、本市を代表する水・みどり豊かなアクティビティ施設として、維持運営していくため、維持運営方法の見直しを行うとともに、下水処理場である、大阪府大和川下流域下水道狭山水みらいセンター（以下「狭山水みらいセンター」という。）の「せせらぎの丘」や「かがやき広場」との連携について検討します。
- ・市内に点在する公園や緑道等において、市民協働による公園や街路樹等の維持管理、保全・活用などに取り組むことで、地域の魅力を身近に感じられる環境づくりに取り組みます。また、これらの拠点において、移動販売車 の出店をはじめとする柔軟で自由度の高い市民協働・公民連携等の取組みを進め、都市全体の価値や魅力、生活利便性の維持・向上をめざします。



関連する SDGs



方針 4

歴史文化遺産 を活用した魅力づくり

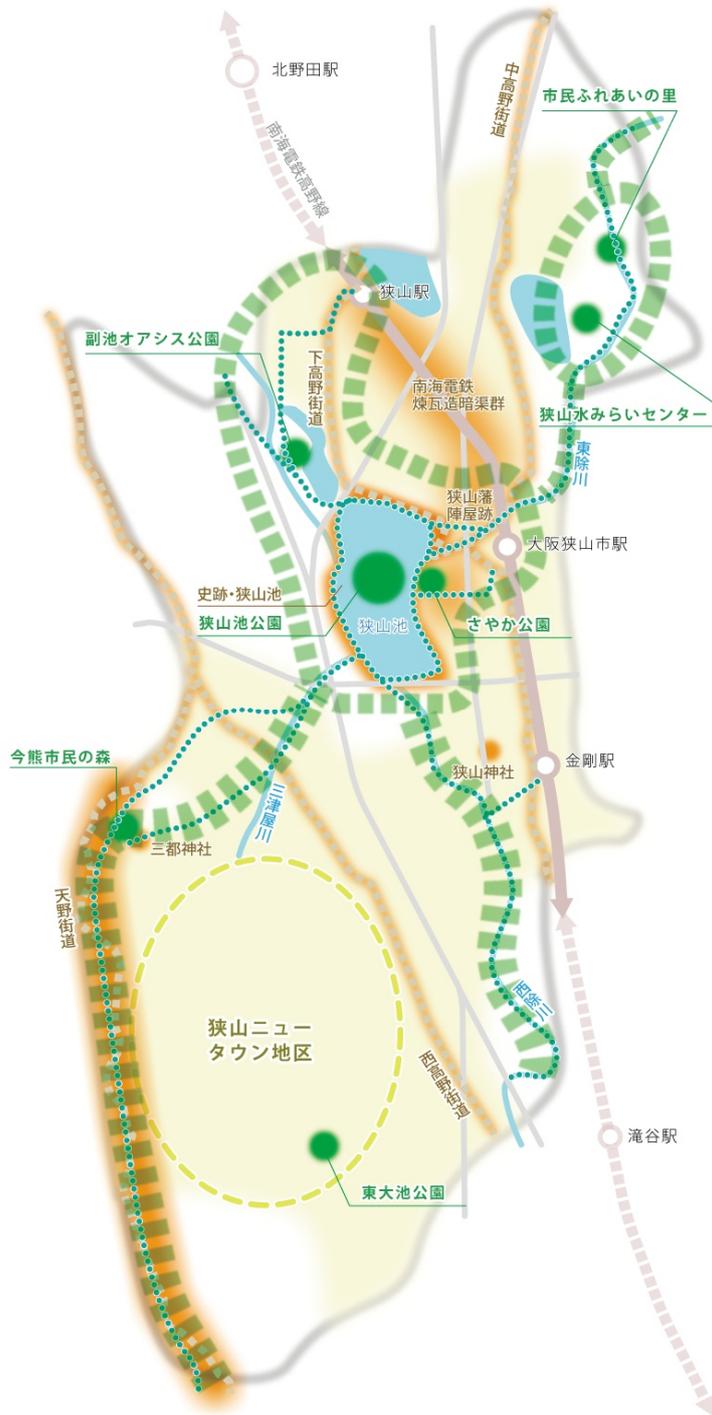
- ・大阪狭山市歴史文化基本構想で位置づけた「狭山池」、「藩と陣屋」、「歴史街道」、「豊かに残る地名」、「鉄道の開通とニュータウンの開発」といったテーマごとに、本市の特徴ある歴史文化遺産とその周辺環境も含めて保全・活用を図ります。
- ・歴史文化遺産周辺の歩行者空間において、休憩施設、案内サイン、修景舗装等の環境整備を進めることで、歴史文化遺産を歩いてめぐることができ、身近に感じられる魅力的な都市空間の形成に取り組みます。



関連する SDGs



- 身近な魅力のある市街地
- みどりの拠点
- 水とみどりのネットワーク
- 街道
- 魅力ある水とみどりの拠点と安全・快適なネットワークの形成を図る箇所
- 歴史文化遺産を活用した魅力づくりを図る箇所



方針 1

都市計画制度の適正な運用等による高質な都市環境の維持・向上

- ・豊かな自然環境の維持・保全
- ・ゆとりある高質な居住環境の維持・向上
- ・良好な衛生環境・水質の維持・向上

市域全体で展開

方針 2

公共交通の維持・拡大と利用促進

- ・コンパクトで利便性の高い移動環境の確保
- ・モビリティマネジメントによる公共交通の利用促進
- ・日常生活圏を踏まえた広域公共交通ネットワークの形成

市域全体で展開

方針 3

魅力ある水とみどりの拠点と安全・快適なネットワークの形成

- ・水とみどりのネットワークの形成
- ・みどりの拠点・身近なみどりの活用、機能向上、維持管理
- ・狭山池周辺エリアにおけるエリアマネジメント体制の構築

方針 4

歴史文化遺産を活用した魅力づくり

- ・テーマ「狭山池」「藩と陣屋」「歴史街道」「豊かに残る地名」「鉄道の開通とニュータウンの開発」を踏まえた歴史文化遺産の保全・活用
- ・歴史文化遺産周辺の環境整備

図 3.3 主要テーマ 1 にかかるテーマ別方針の総括図

(2) 主要テーマ2 | 弱みを補う

活力がつながるにぎわい空間の形成

本市は、豊かな農地と調和のとれた住居系の土地利用を基本として発展してきたことから、事業所や大規模な商業施設等の集積が低いことに加え、商業及び工業をはじめとする既存の事業所等の建替え等への課題、通勤通学や買回り品の購入及び余暇活動等の市外流出に伴う、地域活力の低下が弱みとなっています。

今後も、健全な都市活動を維持・向上させていくため、強みを伸ばすとともに、以下の方針により、これらの弱みを補い、地域活力を維持・向上させ、周辺都市との機能連携や分担を図りつつ、交通結節点における拠点形成や土地のポテンシャル、地域特性に応じた地域活力の維持・向上、道路環境の改善、ウォークアブルネットワークの形成など、活力がつながるにぎわいのある都市空間の形成をめざします。

< 創出する暮らしのイメージ >



身近な場所で、働く、学ぶ、楽しむ、交流する、憩うなどさまざまな活動ができ、利便性が高く、充実感のある暮らしの実現をめざします。

都市基盤となる骨格道路の整備や生活に密着した地域の道路環境を改善し、安全、安心、快適に移動ができる暮らしの実現をめざします。



鉄道駅周辺や公共空間の、環境改善及び機能や空間の質の向上、地域資源や都市活動を活かした景観づくりなどにより、にぎわいや地域の活力を身近に感じられる暮らしの実現をめざします。

方針 1

拠点における都市機能の維持・向上

- ・本市の主要駅である、金剛駅周辺においては駅東側の富田林市との連携を踏まえながら、既存の商業機能等の維持に加え、新たな来街目的となる公益サービス機能等の導入や、子育て世代や高齢者等にとって利便性の高い居住環境を形成することにより、民間投資を促進し、複合機能が集積する拠点となる中心市街地の形成に取り組みます。
- ・他の 2 駅及び狭山ニュータウン地区の中心部においては、現状の商業機能等の維持を図るとともに既存施設の再編や基盤施設の整備、土地利用制限の柔軟な運用を図ること等で、歩ける範囲での暮らしを支える機能が集積した近隣中心拠点の形成に取り組みます。

関連する SDGs



方針 2

土地のポテンシャルを活かした地域活力の維持・向上

- ・市内の商工業をはじめとする産業機能等の維持・向上及び新たな産業機能等の導入により、地域活力を維持・向上させるため、地域の意向や道路のアクセス状況、土地のポテンシャル等を十分踏まえたうえで、地区計画制度等を柔軟かつ適正に運用することで、周辺の営農環境や居住環境等に配慮した計画的な土地利用の提案等に適切に対応します。

関連する SDGs



方針 3

道路環境の改善

- ・本市における都市計画道路の整備は約42.1%の進捗率ですが、整備済み箇所は都市計画道路狭山池富田林線（府道森屋狭山線等）及び狭山ニュータウン地区、鉄道駅周辺の一部区間となっており、幹線道路等における渋滞解消や安全な歩行者空間の確保などの観点から、都市計画道路の整備促進や幹線道路等の交差点改良、歩道拡幅等による道路環境の改善が大きな課題となっています。
- ・特に国道310号や府道河内長野美原線の慢性的な渋滞解消に向けて、バイパス機能を有する都市計画道路大阪河内長野線の整備や府道河内長野美原線の交差点改良などについて、引き続き大阪府に働きかけます。
- ・その他、幹線道路や補助幹線道路、生活道路においても交通量や沿道の土地利用等に応じて道路拡幅や歩道設置、交差点改良等、道路環境の改善に順次、取り組みます。

関連する SDGs



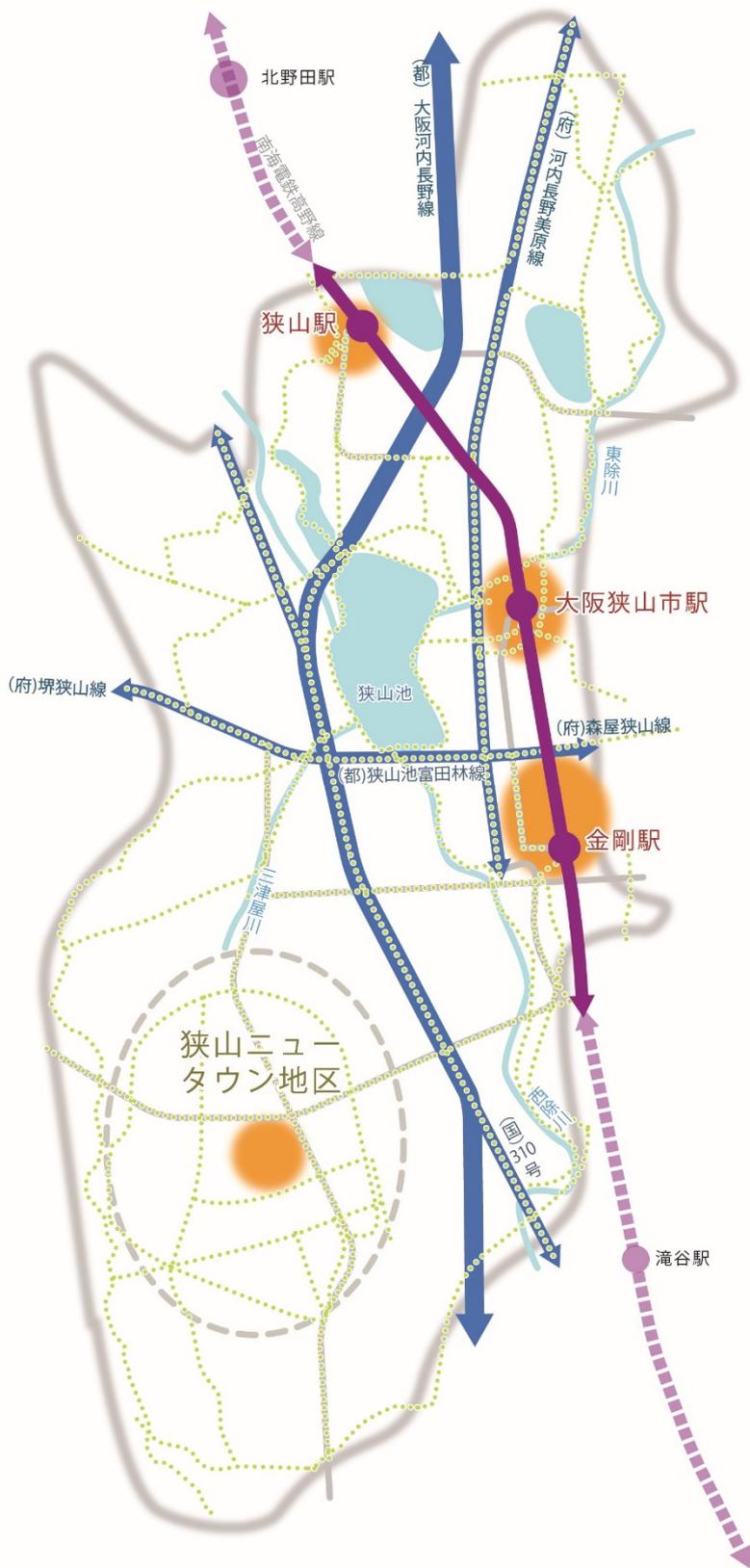
方針 4

安全・安心・快適なウォークブル ネットワークの形成

- ・鉄道駅周辺、主要な幹線道路、河川沿いの遊歩道、歴史街道、公園や公共施設内の通路などを歩行者ネットワークで結び、歩行者が安全かつ快適に移動することができるウォークブルネットワークの形成に取り組みます。ネットワークの形成にあたっては、水とみどりのネットワークや地域に点在する歴史文化遺産の一体的な活用とも連携した魅力的な歩行者空間の形成に取り組むとともに、鉄道駅周辺、幹線道路、通学路などを中心に歩道設置や交通安全対策等を推進します。また、安全で安心できる歩行者空間を形成するため、地域の意向や道路の状況に応じて、防犯灯の設置や不特定多数の人が往来する場所への防犯カメラの設置、植栽等による死角の排除等、防犯対策に取り組みます。

関連する SDGs





方針 1

拠点における都市機能の維持・向上

- ・金剛駅周辺における都市機能の維持と機能の集積・複合化
- ・狭山駅、大阪狭山市駅、狭山ニュータウン地区周辺における都市機能の維持と生活利便性の向上

方針 2

土地のポテンシャルを活かした地域活力の維持・向上

- ・交通アクセスの状況、土地ポテンシャル、地域の意向を踏まえた産業機能等の維持・向上と新たな機能導入

市域全体で展開

方針 3

道路環境の改善

- ・都市計画道路、幹線道路の整備促進
- ・道路環境の改善による地域課題の解消

方針 4

安全・安心・快適なウォーカブル ネットワークの形成

- ・安全・安心・快適なウォーカブルネットワークの形成
- ・歩行者空間における安全対策の推進

- 都市機能の維持・向上を図る都市拠点
- ⇄ 交通軸(鉄道)
- ⇄ 交通軸(広域幹線道路・幹線道路)
- ⋯ 安全・快適なウォーカブルネットワーク

図 3 4 主要テーマ 2 にかかるテーマ別方針の総括図

(3) 主要テーマ3 | 脅威に備える

強靱で持続可能な都市空間の実現

全国的にみられる人口減少・少子高齢化社会の進行や農業の担い手不足等により、空家や空地の増加、農家・農地の減少、地域コミュニティの弱体化などが本市においても懸念されています。これらの脅威から本市の優れた都市環境を守るため、地域の状況に応じた対策が必要であることから、市内でも人口減少・少子高齢化が進行している狭山ニュータウン地区をモデルとして空家・空地の有効活用や若年層の呼び込み、関係人口の拡大等による地域の再生・活性化等に取り組みます。

また、大規模な地震や風水害等の災害が発生した場合においても、被害を最小限に抑え、早期復旧・復興を進めることができる強靱な都市空間の形成をめざします。

さらに、老朽化が進む基盤施設 や公共施設は計画的な維持修繕により長寿命化を進め、必要に応じて更新・再編を進めます。

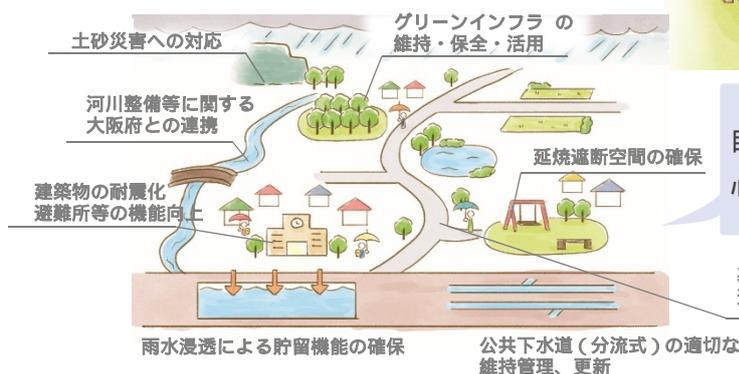
このように来たるべき変化にも動じず、安定した都市経営を実現するため、以下の方針により、強靱で持続可能な都市空間の実現をめざします。

< 創出する暮らしのイメージ >



地域の日常生活に必要な施設や、人びとが集まることができるコミュニティの場など、地域課題を地域で考え、住み慣れた場所で、充実した暮らしが継続できる環境づくりをめざします。

若い世代にとって、良質な中古住宅や親世代等と近居できる住宅を取得することができ、コミュニティの担い手として活躍することができる暮らしの実現をめざします。



自然災害が増加する中でも、安全かつ安心な暮らしの実現をめざします。

基盤施設(道路・公園)の適切な維持管理・更新

方針 1

人口減少・少子高齢化社会の進行に対応した良好な居住環境の維持・向上

- ・空家・空地の発生や地域コミュニティの弱体化等、人口減少・少子高齢化社会の進行に起因して発生する課題に対応するとともに、地域の意向や特性に応じた地域の再生・活性化を進める必要があるため、狭山ニュータウン地区をモデルとして空家・空地の活用や若年層の呼び込み、関係人口の拡大等による良好な居住環境の維持・向上に取り組みます。
- ・空家バンク制度や空家除却補助制度等により空家の発生を抑制する取組みを進めるとともに、公民連携による有効活用や流通促進に取り組みます。

関連する SDGs



方針 2

農環境の維持・保全と地域特性に応じた環境調和型の空間形成

- ・農地については、農業施策との連携、生産緑地制度や開発許可制度等の都市計画制度など関係法令の適正な運用等により、良好な営農環境の維持・保全に取り組みます。
- ・一方で、市街化調整区域のうち、農業の担い手不足や休耕地の連担する地域など、現実的に営農を継続することが困難な地域については、適正な法手続きに基づいて、都市計画制度等を運用し、周辺地域の暮らしを支えるために必要な生活支援機能や、交通利便性を活かした地域の活力の向上につながる産業機能、集落の人口維持に必要な居住環境等への土地利用の展開を検討します。
- ・土地利用の展開にあたっては、地域の特性、地域の意向、交通アクセスの状況等を踏まえ、適切な基盤施設の整備や公園・緑地等の配置、周辺地域の営農環境への配慮がなされた、計画的かつ本市を先導するような環境調和型の良好な都市空間を形成することやこのような地区計画の提案を受け入れることも踏まえ、大阪狭山市市街化調整区域における地区計画のガイドラインについて、必要な見直し等を行います。

関連する SDGs



方針 3

大規模施設跡地の計画的な活用

- ・帝塚山学院大学狭山キャンパスの移転や近畿大学病院等の移転(予定)など、施設移転により生じる大規模な土地利用の変化については、土地所有者や地域の意向、持続可能な都市経営や周辺地域への影響等を踏まえ、そのあり方を検討し、必要に応じて地区計画など都市計画の決定、運用等を検討します。

関連する SDGs



方針 4

災害に強い市街地の形成

- ・公共施設の耐震改修や民間建築物の耐震化・不燃化の促進、老朽空家の除却の促進、袋小路や狭あい道路など災害時の避難・救助活動に課題がある道路環境の改善等を進め、大規模な災害が発生しても被害を最小限に抑えることができる市街地を形成します。
- ・市内の緊急交通路 や避難所につながる道路等に埋設された下水道管の耐震補強を推進します。
- ・大規模な風水害に備え、流域治水 の観点から河川改修事業等の促進に向けて、河川管理者である大阪府との連携に取り組みます。また、浸水対策として、雨水の排水先である河川や下水道施設への負荷軽減のため、開発等における雨水流出抑制施設等の設置に向けた指導の強化や、水利組合等と連携したため池や農業用水路の保全及び改修、ため池や農地、緑地といったみどり をグリーンインフラ として捉え、これらの維持・保全・活用により、雨水貯留機能等の維持・向上に取り組みます。
- ・公園等における防災機能の充実、自主防災組織や消防団との共助による仕組みづくりをはじめとする地域防災力の強化、災害リスクを踏まえた土地利用等の制限、大阪府との調整による災害廃棄物等の処理に関する考え方などを検討することで、災害時における都市の被害を最小限に抑え、早期復旧・復興が可能な体制を構築します。

関連する SDGs



方針 5

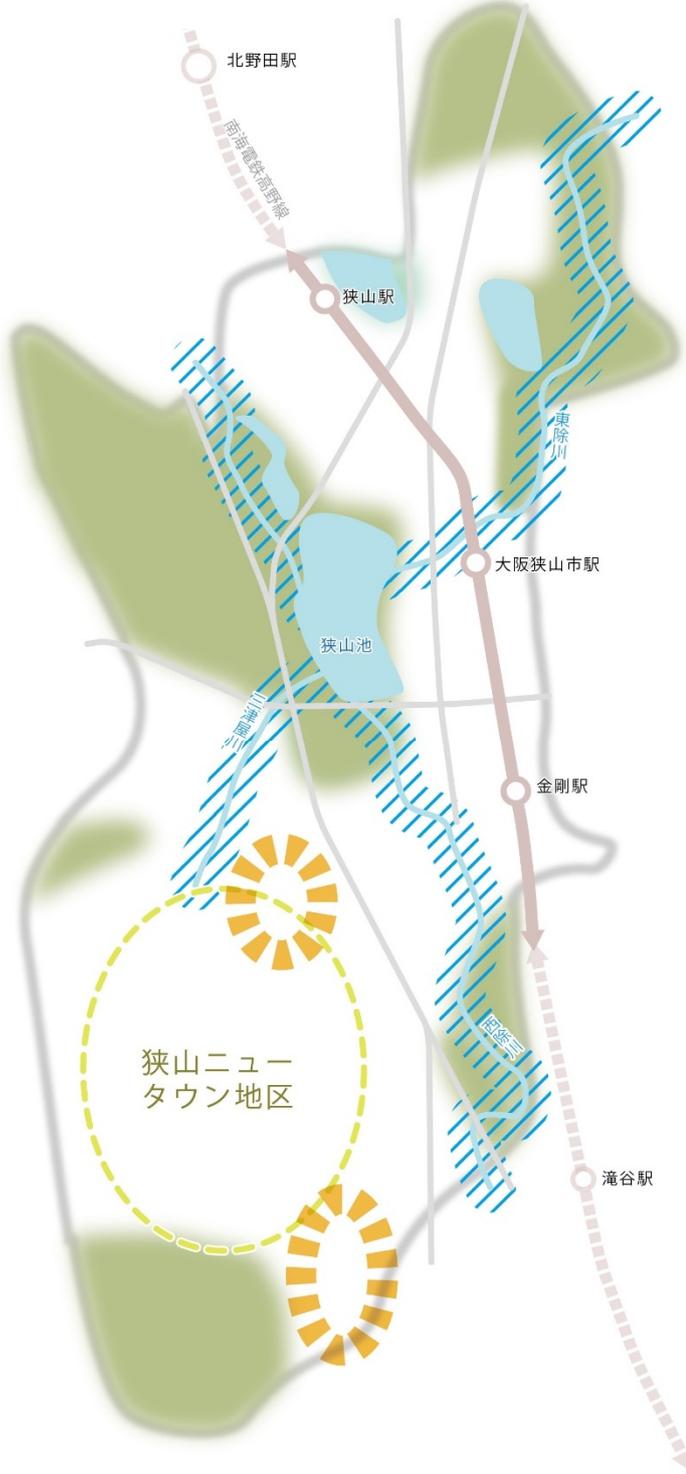
都市活動を支える基盤施設 の長寿命化と再編及び活用

- ・市民の都市活動を支える基盤施設及び公共施設については、老朽化の度合いや緊急性等を踏まえたうえで、計画的な維持修繕による長寿命化に取り組み、必要に応じて更新、再編を行います。
- ・人びとの暮らしを支える道路や公園、下水道施設については、都市における基盤施設として、その機能を将来にわたり確保する必要があるため、アセットマネジメント手法に基づく更新、改築の継続的な実施に向けた、定期的な点検・調査を行い、計画的かつ適切な維持修繕、更新、改築により LCC（ライフサイクルコスト）を低減します。
- ・これら施設については、市民協働・公民連携や情報通信技術等の導入による、施設の運営及び有効活用等についても検討を進めます。

関連する SDGs



-  無秩序な市街化を抑制し豊かな自然環境やまとまりあるみどりの維持・保全を図る箇所
-  大規模施設跡地の計画的な活用を図る箇所
-  特に災害リスクの低減を図る箇所



方針 1

人口減少・少子高齢化社会の進行に対応した良好な居住環境の維持・向上

- ・空家・空地の発生抑制と適切な維持管理、有効活用と流通促進
- ・地域コミュニティの維持・向上
- ・狭山ニュータウン地区における活性化モデル事業としての取組み推進

市域全体で展開

方針 2

農環境の維持・保全と地域特性に応じた環境調和型の空間形成

- ・良好な営農環境の維持・保全
- ・維持困難な地域における、地域を支える土地利用の展開
- ・地域の特性及び意向、交通アクセスの状況等を踏まえた環境調和型の都市空間の形成

市域全体で展開

方針 3

大規模施設跡地の計画的な活用

- ・大規模な施設移転に伴う計画的な土地利用の検討

方針 4

災害に強い市街地の形成

- ・建物の耐震化・不燃化、老朽空家の除却、道路環境の改善、下水道管の耐震補強などの推進
- ・流域治水 を踏まえ、大阪府と連携した浸水対策の推進
- ・グリーンインフラ の維持・保全・活用
- ・減災 対策の推進、早期復旧・復興が可能な体制構築

市域全体で展開

方針 5

都市活動を支える基盤施設 の長寿命化と再編

- ・基盤施設及び公共施設の長寿命化と更新、再編
- ・施設の運営及び有効活用等の推進

市域全体で展開

図 3 5 主要テーマ 3 にかかるテーマ別方針の総括図

(1) 都市空間の基本となるゾーンの形成

めざすべき将来像として、都市空間の基本となる面的な都市構造について、既存の土地利用の状況等を踏まえ「ゾーン」の設定を行います。

市街地ゾーン



- ・現状の市街化区域 の範囲を市街地ゾーンとして位置づけます。
- ・既存ストック を活かしつつ、時代の変化に応じて都市施設や土地利用の更新を進めることで、将来にわたり、暮らしや都市活動を支える空間の形成をめざします。

人とみどりの共生ゾーン



- ・現状の市街化調整区域 の範囲を、人とみどりの共生ゾーンとして位置づけます。
- ・無秩序な市街化を抑制し、豊かな自然環境やまとまりのある農地、公園・緑地等の維持・保全をめざします。
- ・本ゾーンのうち、幹線道路沿道など土地利用のポテンシャルが高い地域においては、周辺地域の居住環境や営農環境等に配慮し、周辺地域や市全体の活力の向上につながる産業機能等の導入を検討します。
- ・本ゾーンのうち、農業の担い手不足や休耕地の連担する地域など、現実的に営農を継続することが困難な地域においては、周辺地域の暮らしを支えるために必要な生活支援機能や、交通利便性を活かした地域の活力の向上につながる産業機能、集落の人口維持に必要な居住環境等への土地利用の展開を検討します。
- ・土地利用の検討においては、地域の特性、地域の意向、交通アクセスの状況等を踏まえ、適切な基盤施設 の整備や公園・緑地等の配置、周辺地域の営農環境への配慮がなされた、計画的かつ本市を先導するような環境調和型の良好な都市空間を形成します。

(2) 役割に応じた拠点の形成

めざすべき将来像として、目的に応じて人びとが集まり、都市活動を展開する空間について、既存の都市機能集積の状況等を踏まえ「拠点」の設定を行います。

中心市街地拠点



- ・交通結節点 であり商業機能等が集積している金剛駅周辺を本市の中心市街地拠点として設定します。
- ・駅東側の富田林市との連携も踏まえながら、多様な来街目的を有するエリアとして、公共公益機能、商業機能、サービス機能、都市型の居住機能等、多様な都市機能が集積するとともに、本市の玄関口にふさわしい都市デザインや景観により、にぎわいがあり、居心地が良く歩きたくなるまちなかの実現をめざします。

近隣中心拠点



- ・交通結節点である狭山駅周辺、大阪狭山市駅周辺、狭山ニュータウン地区の中央に位置する狭山ニュータウン中央交差点付近を近隣中心拠点として設定します。
- ・近隣住民の日常生活を支える生活支援機能等の集積や周辺の土地利用状況に応じた周辺道路の環境改善、拠点周辺の歩行者空間の環境改善、公共交通機能の再編等を進めることで、生活利便性が高く、居心地が良く歩きたくなるまちなかの実現をめざします。

公共・文化交流拠点



- ・拠点に集積している公共公益機能等と周辺地域の良好な居住環境の維持・向上を基本としながらも、今後の各施設の在り方について検討を進める箇所を公共・文化交流拠点として設定します。
- ・市役所周辺は、行政機能や文化交流機能等が集積しているため、文化的な活動が日々行われ、親しみ集える空間の形成をめざします。また、水とみどりのネットワークの玄関口として、人びとの交流を促進できるよう、情報発信機能等の増進をめざします。
- ・狭山池は本市の中心に位置する総合公園 であり、市内外から多くの人が集まり、継続して様々な活動が行われていることから、にぎわい、憩い、交流するための機能や情報発信機能等の増進をめざします。また、府立狭山池博物館・市立郷土資料館や市役所周辺の施設との一体的な活用を促進するとともに、必要な機能の導入や環境整備について検討を進めます。
- ・今熊地区及び狭山ニュータウン中央交差点付近は、行政、文化交流、福祉等に関する機能が集積しているため、これらの維持・向上により、利便性が高く親しみ集える空間の形成をめざします。

みどりの拠点



- ・本市を代表する都市公園・緑地等の周辺をみどりの拠点として位置づけ、市民協働・公民連携等による新たな機能の導入や環境整備を進め、拠点周辺も含めた空間の質を向上させ、憩い、にぎわうことができる空間の形成をめざします。
- ・狭山池公園は、水とみどりのネットワーク構想における重点アクションエリアとして新たな機能導入や周辺施設、公園等との一体的な活用を促進するとともに、エリアマネジメント体制の構築等について検討することで、良好な空間を維持・保全します。また周辺施設とも連携しながら、多くの人が集まり様々な活動を継続して行うために必要な機能導入や環境整備について検討し、人びとの活動による景観づくりを進めます。
- ・副池オアシス公園では、水とみどりのネットワーク構想における重点アクションエリアとして、狭山池公園や周辺地域と連携しつつ、公民連携手法を活用した南部エリアと北部エリアの一体的な整備を進めることで、エリア全体の魅力価値を高め、市民満足度の向上に取り組みます。
- ・さやか公園及び東大池公園では、近隣住民の生活を支える憩い、にぎわうことのできる拠点及び防災拠点として必要な整備や機能向上など、空間の活用に関する取組みを進めます。
- ・市民ふれあいの里及びその周辺については、水・みどり豊かなアクティビティ施設として維持運営方法の見直しを行うとともに、狭山水みらいセンターの「せせらぎの丘」や「かがやき広場」との連携について検討します。
- ・今熊市民の森では、開発を抑制し、市民協働・公民連携等による維持・保全活動を支援するとともに、自然体験や環境学習等をはじめとするみどりの活用を促進します。

レクリエーション・健康拠点



- ・山本地区の総合体育館や野球場等スポーツ施設が集積する箇所及び大野地区のテニスコートや第三青少年運動広場等の周辺箇所を、レクリエーション・健康拠点として設定します。
- ・山本地区周辺では、市民が利用しやすく、憩える拠点の形成をめざします。
- ・大野地区周辺では、自然環境や運動広場等の活用など、市民の健康を支える拠点の形成をめざします。

(3) 市民の移動と地域間の連携を支える都市軸の形成

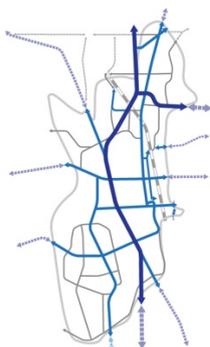
めざすべき将来像として、鉄道、自動車、バス、徒歩といった市民の移動を支える都市の軸について、既存の交通ネットワーク等の状況を踏まえ「都市軸」の設定を行います。

交通軸（鉄道）



- ・市民の通勤通学等の主要な移動手段として利用されている南海電鉄高野線を交通軸（鉄道）として設定し、利便性の維持・向上に取り組むことで、大阪市や堺市の都心部をはじめとする周辺都市との広域公共交通ネットワークを構築し、利便性の高い広域生活圏の形成をめざします。

交通軸（骨格道路）



- ・広域的な道路ネットワークや拠点へのアクセス性を高めるため、広域幹線道路、幹線道路及び補助幹線道路を交通軸（骨格道路）として設定し、計画的な維持修繕、長寿命化と更新等による、利便性の向上をめざします。
- ・バス等の公共交通を再編することで、隣接する他都市における拠点との連携を深め、選択性・利便性の高い日常生活圏の形成をめざします。

ウォーカブル ネットワーク



- ・狭山池を中心とする河川、みどりの拠点、天野街道、交通結節点等をつなぐ水とみどりのネットワークや主要な交通軸（骨格道路）における歩行者空間、中心市街地拠点や近隣中心拠点周辺の居心地が良く歩きたくなるまちなか等を結び、歩行者空間相互のつながりをウォーカブルネットワークとして位置づけ、コンパクトな本市の全域をめぐる、安全・安心・快適なウォーカブルネットワークの形成をめざします。
- ・ネットワークの形成にあたっては、市内に点在する歴史文化遺産の一体的な活用とも連携した魅力的な歩行者空間の形成をめざします。